

# 建設常任委員会所管事務調査報告書

西宮市議会議長 山田 ますと 様

令和6年1月23日  
(2024年)

## 建設常任委員会

委員長	江 良 健太郎
副委員長	松 本 たかゆき
委員	川 村 よしと
”	草 加 智 清
”	坂 上 明
”	花 岡 ゆたか
欠席委員	村 上 ひろし
”	森 けんと
随 行	前 出 桂 樹

建設常任委員会管外視察について、次のとおり報告します。

## 1 調査先及び調査事項

芦別市

- ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

札幌市

- ・身近な公園の再整備について

苫小牧市

- ・公園における既存施設の活用について

千歳市

- ・グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

## 2 調査期間

令和5年10月31日(火)～11月2日(木) 2泊3日

## 3 調査先対応者

芦別市

議長

北 村 真

議会事務局長

石 崎 俊 行

議会事務局総務議事係書記

多 田 都 奈 観

経済建設部都市建設課長

源 智 和

経済建設部都市建設課土木係係長

渡 邊 裕 行

経済建設部都市建設課土木係主事

窪 田 稿 平

札幌市

議会事務局政策調査課一般事務

小 林 龍 之 輔

建設局みどりの推進部みどりの推進課長

小 松 諭 知

建設局みどりの推進部みどりの推進課計画係係長

東 谷 壮 一 郎

建設局みどりの推進部みどりの推進課計画係一般事務

幸 村 友 督

苫小牧市

議会事務局主査

中 山 明 紀

議会事務局書記	伊藤 遼平
総合政策部まちづくり推進室スポーツ都市推進課長	畠山 邦雄
緑豊建設株式会社統括責任者	矢野 孝一

#### 千歳市

議会事務局総務課調査係係長	谷口 正樹
産業振興部商業労働課長	辻 誠
産業振興部商業労働課主査（エリアマネジメント推進担当）	二階堂 真弥

#### 4 用務経過等

##### <芦別市> 10月31日（火）

午後3時頃、芦別市議会に到着し、北村議長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、都市建設課の渡邊係長より、調査事項について説明を受け、事前に送付した質問項目に対して回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

（午後4時40分頃視察終了）

##### <札幌市> 11月1日（水）

午前10時頃、札幌市議会に到着し、議会事務局政策調査課の小林様より歓迎のあいさつをいただく。

その後、みどりの推進課の小松課長より、調査事項について説明を受け、事前に送付した質問項目に対して回答をいただき、質疑、意見交換を行った。

（午前11時頃視察終了）

##### <苫小牧市> 11月1日（水）

午後2時30分頃、宿泊施設「緑ヶ丘トマロ」に到着し、議会事務局の伊藤書記より歓迎のあいさつをいただく。

その後、スポーツ都市推進課の畠山課長、緑豊建設株式会社統括責任者の矢野様より、調査事項について説明を受け、宿泊施設内、緑ヶ丘公園を現地視察するとともに、質疑、意見交換を行った。

（午後4時頃視察終了）

##### <千歳市> 11月2日（木）

午前10時30分頃、千歳市議会に到着し、議会事務局総務課の谷口係長より歓迎のあいさつをいただく。

その後、商業労働課の二階堂主査より、調査事項について説明を受け、事前に送付した質問項目に対して回答をいただいた。次に、グリーンベルトを現地視察するとともに、質疑、意見交換を行った。

（正午頃視察終了）

5 視察風景

■ 芦別市



■札幌市





■ 苫小牧市





■千歳市



# 委員会行政視察報告書

委員氏名 江良 健太郎

調査の期間	令和5年(2023年)10月31日(火)～11月2日(木)
調査先 及び 調査事項	1. 芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について 2. 札幌市 ・身近な公園の再整備について 3. 苫小牧市 ・公園における既存設備の活用について 4. 千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成と エリアマネジメント推進について

令和5年10月31日(火)～11月2日(木)に上記4点について他市の先行事例を学ぶために行政視察を行った。

## 【視察先選定理由と目的】

- ・今期の委員会での施策研究テーマが『公園の在り方』ということ
- ・西宮市の今後の課題と類似していること
- ・国土交通省の『都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会』に先進事例として紹介されていること
- ・西宮ベイエリア一帯の土地活用構想を考えていること

以上が選定理由となり、4自治体とも得られた成果は大きく、有益な提言ができる視察となった。以下、具体的な目的を示す。

芦別市 / 施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

人口減少、少子高齢化による公園施設の縮減、統合等を学ぶため

札幌市 / 身近な公園の再整備について

公園機能の分担による総量の適正化等を学ぶため

苫小牧市 / 公園における既存施設の活用について

既存施設を活用し、プロポーザルによる指定管理者の運営方法を学ぶため、及び総合運動公園の現地視察

千歳市 / グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

エリアマネジメント等による街の中心市街地活性化の取り組みが、西宮のベイエリア一帯の土地活用構想に汎用できるかを学ぶため



## 【芦別市／施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について】

芦別市では、管理する 56 公園（うち都市公園は 42 箇所）のうち約 7 割が整備後 30 年を経過しており、遊具や休憩施設等の老朽化が進行している。同時に少子高齢化やライフスタイルの変化により、利用者のニーズと公園機能との間に乖離が生じ、公園の利用が低調となっている。地域住民の意見を取り入れながら再整備を進めるため、公園施設長寿命化計画と併せて【都市公園再整備計画】を策定。公園の特徴を 5 つに分類し、町内会ごとにバランスを考慮して配置するとともに、施設の利用状況を踏まえた管理基準を設け、施設の更新・維持、撤去の方針を公園ごとに設定している。

### ◆5 分類した公園の特徴

- A. 年齢層を問わず憩える公園
- B. 低年齢層を対象にした遊具の充実した公園
- C. 高齢者層を対象にした樹木等の景観に配慮した公園
- D. 地域住民の交流の場とした多種多様なレクリエーションの場となる公園
- E. 広い空間を多目的に利用できる公園

これらを管理基準に基づき、公園ごとの利用頻度を踏まえて計画上の位置付けを整理し、再整備や老朽化した施設の取扱の方向性を提示するものである。

### 《管理基準》

- あ. 積極的に再整備し、遊具等の入替を優先的に行う
- い. 現施設は状況により補修・移設等により維持する
- う. 最低限の補修とし、補修が不可なら撤去
- え. 基本的に破損した施設・遊具等については撤去する

芦別市ではこれまでの再整備の実績として、公園利用者のほとんどいない状況の公園（水道使用料から割り出した推定）を、遊びや休息を目的としたレクリエーション機能が満足できると判断し、平成 31 年 2 月に 2 公園を廃止し、近隣公園と集約再編している。

また、令和 6 年度に団地の建替えにより 1 公園の廃止を予定している。

公園トイレの改修計画はないが近年、損傷が多く部分補修では対応が困難な状況にあることから財政状況を鑑み、FRP 製のトイレの改修を計画している。なお、これまでトイレを撤去した公園は無いとのこと。公園内、近辺での防犯対策として多くの人が集まる公園に限り、監視カメラを設置している。また、3 日に 1 回程のペース（6000 万円程）で業者及び町内会へ公園管理業務（清掃）等を委託し、異常が確認された際は、通報を受けて現地をパトロールしている。

## 【札幌市／身近な公園の再整備について】

札幌市では、施設の老朽化、地域間における公園の偏りや機能の重複といった課題に対し、「第4次札幌市みどりの基本計画」において、目標の一つに『公園などのみどりで都市の安全・安心を高め、潤いや賑わいを創出していきます』と設定している。また、公園整備に関わる施策を具体化するため「札幌市公園整備方針」を策定し、公園の配置、種類、施設の視点から施策を設定し、身近な公園の再整備等を進めている。

身近な公園である街区公園について

### A. 「地域の核となる公園」

1,000 m<sup>2</sup>以上の街区公園のうち、周辺に当該公園より大きい公園が少なく、地域利用の中心となる公園

### B. 「機能特化公園」

1,000 m<sup>2</sup>未満の街区公園のうち、「地域の核となる公園」の誘致圏 250m 以内にあり、周辺に当該公園より大きな公園が多い公園

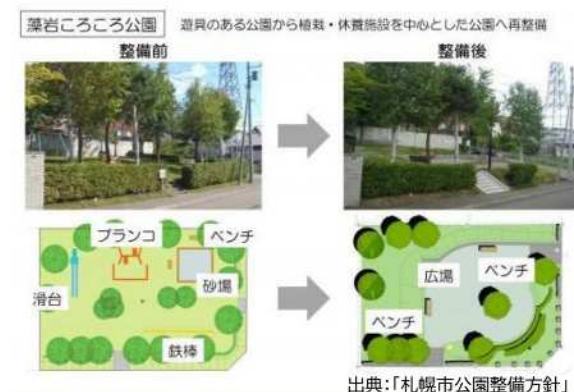
### C. 「その他の公園」

いずれにも該当しない公園

に分類し、機能分担を行うことでメリハリをつけながら、整備・再整備・施設更新を推進している。

▼国土交通省 HP：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会資料より抜粋

#### ■街区公園の機能分担の考え方と再整備の例



◎基本的な考え方として

### 1. 量から質へシフトしていく

公園を新しく作ること（「量」）よりも、少子高齢化等の社会情勢の変化などにも応じて、既存の公園を活用すること（「質」）を主な施策とする。

### 2. 選択と集中

必要性の高い地域や公園等を「選択」し、そこに新規設備や再整備等を「集中」する。

## 公園のトイレの在り方として

- ・街区公園等の小規模な公園トイレは、利用の少ないトイレについて更新時に廃止を前提に検討する。また、基本的に新規設置を行わない。
- ・街区公園以外の公園トイレは、必要に応じてその数や配置の適正化を図る。

## 【苫小牧市／公園における既存施設の活用について】

苫小牧市では、当時（平成 27 年度）市内の民間宿泊施設の 7 件が廃業となるなど、スポーツ合宿・大会等の受入れにあたり、宿泊施設が不足している状況となったため、「苫小牧サイクリングターミナル」として使われていた場所を再利用できないか検討。さらなるスポーツ合宿等の誘致及び公園利用者の利便性向上を図るために遊休施設を改修し、『TOMARO』として再スタートを切る。



多目的宿泊施設となっており、敷地内の緑ヶ丘運動公園には陸上競技場、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニスコート、ハイランドスポーツセンター（スピードスケート規格）などの施設があり、トレーニングや合宿に最適な場所である。宿泊スペースも整備され最大 58 名まで受け入れ可能、大浴場やトレーニング施設も完備されている。アスリートが天候に左右されずにトレーニングできる環境を整備。

また、食事に関しても朝食は ACCA 公認アスレティックコンディショニングコーチズ協会公認資格者がスポーツ栄養学を活かして管理したメニューが提供される。

平成 30 年度に対象となる 2 施設を 10 年の「無償貸付けによる公募型プロポーザル」を行い、有効活用される民間事業者等を広く募集するが応募者なし。事業者の声として、「10 年



間の貸付け期間では採算が見込めない。」「2施設を同時改修して営業させるのはリスクが大きい。」「1施設のみ利活用を検討したい。」があった。条件を緩和し、令和4年に新たな宿泊施設として誕生。公園内のスポーツ施設などと併せて、緑豊建設が指定管理者として管理する。

5日前までの完全予約制で予定のない日は営業をせずに人件費の抑制に努めている。令和4年度は宿泊日数73日で稼働率20%であったが、令和5年度は10月25日時点で宿泊日数90日で稼働率42%、黒字見込である。

### 【千歳市／グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について】

千歳市では、かつて複数の商店街やデパート等が栄えて多くの人が行き交う「まちの顔」といわれていたが、現在は人口の増加やライフスタイルの多様化に伴い、郊外に住宅が増えたことで日常的な活気が見えにくくなった中心部を、都市計画道路の新たなポテンシャルを引き出す、1.文化交流機能、2.産業振興機能、3.観光機能を備えた広場・公園・河川・道路一体型の拠点の形成により、中心市街地の活性化とエリアマネジメントの推進を図る事業を実施している。

#### ▼グリーンベルトエリアを現地視察



## 官民連携まちなか活性化推進事業（令和3～4年度）



①ちとせエリアプラットフォームの構築  
まちづくりに関心・関わりの深い官民連携のメンバーで構成。ゆるやかな協議・連携の場として、ちとせ未来ビジョンの策定を行うために構築された。

②ちとせ未来ビジョンの策定  
ちとせエリアプラットフォームで、ミーティングやワークショップ、社会実験を重ね、グリーンベルト周辺のエリア（まちの顔エリア）が目指すべき将来像を描いた。



令和5年度からは実現に向けて  
実際に動き出す段階

9

『官民連携まちなか活性化推進事業』はまちづくりに関心・関わりの深い官民連携のメンバーで構成され、協議・連携のプラットフォームを構築し、ワークショップ、ミーティング、社会実験を重ね、当該エリアの目指すべき将来像を描く。ちとせエリアプラットフォームの主な団体は以下の通りである。

### ●推薦と公募で選出

- ・千歳商工会議所      ・千歳青年会議所      ・千歳市商店街振興組合連合
- ・科技大 地域連携センター教授      ・千歳高校 3-3 国際教養科      ・千歳観光連盟
- ・えき まち空間ワークショップ      ・おしごと部ちとせ      ・チトセコ／CLEAN GO
- ・イロイロリビング      ・千歳ソラのまちづくり委員会      ・科技大 学生
- ・北海道エアポート株式会社

### ●千歳市

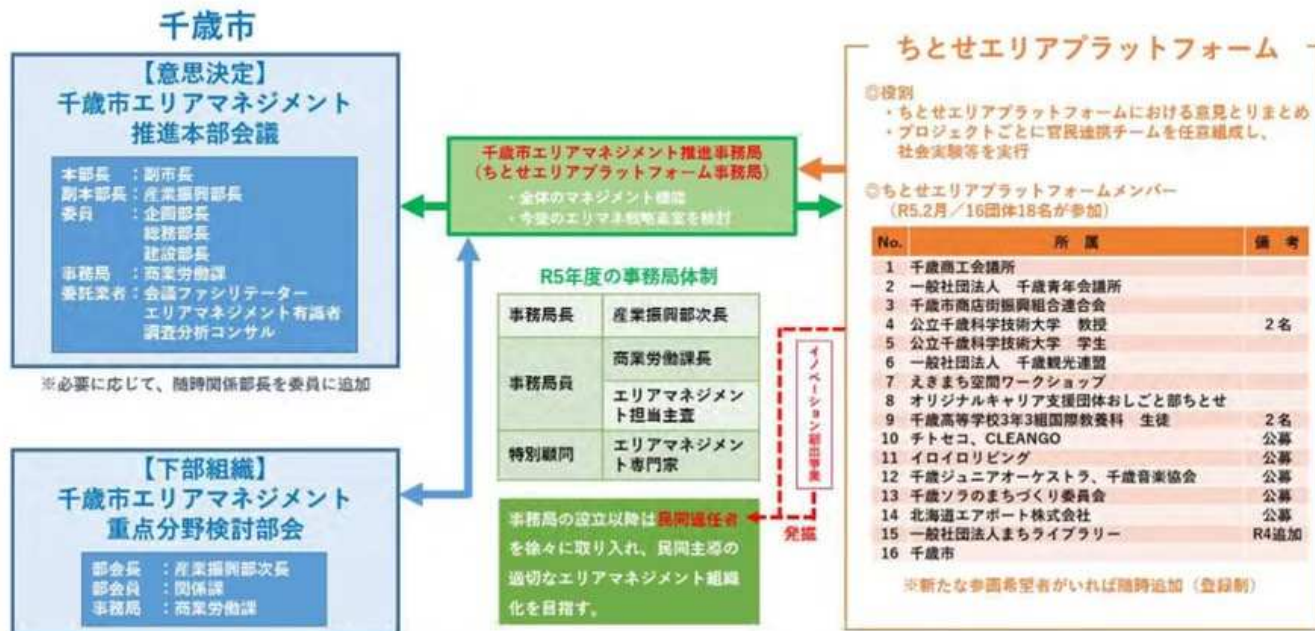
- ・産業振興部 商業労働課      ・建設部 都市整備課      ・建設部 事業庶務課
- ・企画部 まちづくり推進課      ・企画部 政策推進課 等

### ●エリアマネジメントの専門家

コンサル事業者と初年度は公募型プロポーザルで委託契約を結び、翌年は随契としている。  
(R3 委託費：5,775,000円、R4 委託費：4,584,630円)

▼千歳市視察資料より抜粋

## グリーンベルト周辺地域エリアマネジメント推進業務体制



### ・ 中心市街地の活性化になぜ取り組むのか

中心市街地においては、商店街や個店などの商業機能のほか、グリーンベルトや千歳川、文化センターや市民ギャラリー等の公的資産、鉄道やバスといった交通網の充実など、多くの都市機能が集積した「まちの顔」であり、このエリアを活性化することにより、まちの魅力向上（商業振興、雇用促進、コミュニティの創出と拡大、観光振興など）を図る。

### ・ 中心市街地におけるまちづくりの考え方

人を呼び込み消費を目的とする施設を誘致・整備してにぎわい創出を図るまちづくりは、継続的なまちの活性化には繋がらない。従来型のまちづくりからの脱却が必要。ビジネスや文化交流など具体的な目的を持った人々が必然的に集積し、持続的に昼夜間人口を生み出す機能を整え、そのエリアの価値を育てるエリアマネジメントを進めてこそ、持続的なまちの活性化に繋がる。この取組みの蓄積により、**結果的に**周辺で新たな商売等の民間投資が生まれ、エリアの価値が高まっていく。

**中心市街地活性化には、必然的に人が集積する拠点施設の整備・運営と、まちの顔エリア全体のエリアマネジメントを両輪で進めることが必要。**



## 未来ビジョンの実現に向けた取組

**誰でもまちづくりに参加し絆を育んでいくエリアづくり**

シビックプライド(まちに対する誇りや愛着に留まらず、自らまちを良くしていくこととする自負心)を持ち、率先してまちのために活動していく”人たち”は、まちづくりの大きな資源となります。シビックプライドを持った人を一人でも多く増やしていくためには、「互酬性」や「信頼性」を大切にコミュニケーションにより「絆」を育むことが重要で、このような絆を育みながら、連携し持続的なまちづくりが行われるエリアを目指します。

エリアには、グリーンベルトや千歳川、道路などの「公共空間」、空き地や空き店舗などの「民間不動産」など、様々な空間資源があります。これらの空間資源を柔軟に活用し、地域と時代のニーズに対応したコンテンツを創出することで、市民や来訪者の滞在や滞留を促し、様々な「楽しみ」を呼び起こすエリアを目指します。

**交流とコミュニケーションの拠点となり経済の活性化につながるエリア**

経済の活性化なくしてエリアの活性化は実現できません。このエリアには日常的な集客力やエリアの価値を高めるような機能が不足しているため、このままでは有効な民間投資の可能性が少なく、エリアの活性化は期待できません。エリアに「新しい価値」や「魅力とにぎわい」を創出するような「人の活動が見える拠点」をつくることで民間投資が誘発され、エリアの価値が高まり、さらなる民間投資につながる、そのような循環をつくることで、日常的なにぎわいがある経済の中心となるエリアを目指します。

**歩いて楽しい回遊したくなるエリア**

都市空間を、従来の“車中心”から“人中心”のウォーカブルな空間に転換していくことは、人々が安全・快適に滞在できる空間を確保するのみならず、近隣商業の売上げ上昇、地価の上昇といった都市経営面の効果、さらには子どもが安心して遊び過ごすことができる場の創出、災害時の一時避難所や避難経路の確保など、多面的な効果を生み出します。このように、快適な歩行空間の創出は、様々な面でエリアの活性化につながる事が期待できることから、車でアクセスしやすい環境にも配慮しながら、ウォーカブルなエリアを目指します。

**情報を届けて多様な人とまちがつながるエリア**

エリアの魅力高め、持続可能なまちづくりを進めるためには、メディアの特性や情報訴求の流れを理解し、的確なプロモーションを行うなど、戦略的かつ効果的な情報発信が不可欠です。また、このようなプロモーションを行いながら、エリアと長く深くつながり、エリアの魅力を代弁して周囲に広めてくれるファンを増やしていくことも重要なことです。伝えたい情報に応じてターゲットを明確にし、多様なメディアや媒体を活用しながら、閲覧数や拡散性を高め、質の高い情報を継続的に発信することで、多様な人とまちがつながるエリアを目指します。

**短期**...検討や実証実験などを始め、3年以内に取り組んでいくもの

**中期**...検討や実証実験などを始め、6年以内に取り組んでいくもの

**長期**...検討や実証実験などを始め、10年以内に取り組んでいくもの

**シビックプライドの醸成**  
(例)ロゴの作成やキャンペーンの実施 短期

**人材の発掘、確保、育成とその仕組みづくり**  
(例)エリアマネジメント組織の設立 短期

**テーマや対象、場の特長を活かした、日常使いを高めるコンテンツの充実**  
(例)グリーンベルトや千歳川におけるピクニック・デイキャンプの推奨 短期

**連携した催し、取組の推進**  
(例)既存イベントとのコラボ開催 短期

**遺体不動産の活用**  
(例)空き地の活用や空き店舗のリノベーション 短期

**多機能化**  
(例)まちなか居住の推進、オフィスの誘致など 短期

**観光客や若い世代の交流の場づくり**  
(例)エリア内での滞留拠点の整備 中期

**居心地の良い空間、日常的な活動の場づくり**  
(例)交流スペースの整備 長期

**デザイン性高く統一感のある景観づくり**  
(例)1階部分のガラス張り化 中期

**歩行者ネットワークの充実**  
(例)歩行者空間の拡大 中期

**情報発信の工夫**  
(例)媒体、対象、連携を意識した周知 短期



?

この取組を進めるために必要なことは?

## ▼千歳市視察資料より抜粋

### 取組を進めるための“仕組み”

- ①エリアプラットフォームから派生する実行部隊「アクションチーム」をつくる。
- ②アクションチームは、活動内容を考え、資金を集め、市内外の人に情報発信を行う。
- ③情報発信を通じて、チームに加わりたいメンバーも募り、チームを強化していく。
- ④チームの強化により、活動内容・資金集め・情報発信も強化していく。
- ⑤以上のプラスのサイクルを通じて、質・量のレベルアップを目指す。
- ⑥将来的には、民間によるエリアマネジメント団体(まちづくり会社など)の設立を目指す。

### 取組を進めるための“心掛け”

- ①継続中の取組は、“連携”しよう  
エリア内の活動は、バラバラに取り組むのではなく、「開催日」「テーマ」「ロゴ」「ターゲット」などを共通させることで、一体感や相乗効果が期待できます。  
また、周知についても、共通のハッシュタグなどを使いみんなで発信することで、情報発信力が高まります。
- ②エリアの資源を活用して、新しい“使い方”をしてみよう  
エリアの中には、グリーンベルトや千歳川などの貴重な資源があります。  
これらの資源を有効に活用するために、新しい視点や発想を取り入れて、新たな使い方をすることにより、釋ける空間や楽しい空間を創ることができエリアの魅力が高まります。
- ③居心地よく過ごせる空間を“デザイン”しよう  
誰でも気軽にゆっくり過ごせる居心地の良い場所があると、自然に交流とコミュニケーションの場が生まれます。  
椅子やテーブル、テントやタープなどを使うことで、景観に合った居心地の良い空間づくりに繋がります。
- ④市が推し進めている大きな取組と“リンク”させよう  
例えば市では脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「千歳ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。  
市の方針に沿って各種取組を進めることで一体的なまちづくりが進みます。

■ちとせエリアプラットフォームメンバー(令和5年2月現在)

・千歳商工会議所	・千歳高等学校 3年3組 国際科 教員
・一般社団法人 千歳青年会議所	・北海道エアポート株式会社
・千歳市商店街振興組合連合会	・まちライブラリーちとせ
・公立千歳科学技術大学 地域連携センター	・キトセコ・CLEANGO
・公立千歳科学技術大学 学生	・イロイロリビング
・一般社団法人 千歳観光連盟	・千歳音楽協会
・えき まち空間ワークショップ	・千歳ソラのまちづくり委員会
・おしごと部ちとせ	・千歳市

## 社会実験から見えてきた「新しい」ものとして

### 1. 新しい連携

官民（行政・企業・団体・個人）がフラットに繋がり、イベント等を通じて自分たちで稼ぐことにより、活動は持続していく。また魅力的な活動（社会実験）には、まちづくりに関心のある人が集まってくる。キーワードはWIN-WINの関係性、稼ぐこと。

### 2. 新しい使い方

今までの固定概念を取り払って、柔軟なアイデアでまちの空間資源を使いこなすことにより、新たな魅力を生んだり、活動の原資となるお金を稼ぐことができる。キーワードは行政の立ち振る舞いや考え方。

### 3. 新しい賑わい

イベント等はあくまで一過性の賑わいである。昼夜間の人口を増やす「日常的な賑わい」をつくることで、周辺に新たな商い（商業施設・オフィス・住宅）の動きが出る。そして、蓄積がエリアの価値向上（活性化）に繋がっていく。キーワードは拠点・ウォークアブル。

### **【芦別市／施設や利用の状況を踏まえた公園再整備】**

#### **【札幌市／身近な公園の再整備】についての提言**

都市公園を対象とした公園の集約・再整備であるが、街区公園においても施設や遊具の状態でも同様の措置を検討して良いと考える。また札幌市の量から質へ、選択と集中というように、近隣公園での機能の重複を解消して行くべきだと考える。極端に言えば、キャッチボールやサッカー等のボール遊びを推奨する公園があっても良いということだと考える。

トイレの更新は課題であり、平成 29 年度より順次更新しているが市内 32 基の公園トイレは、健全度調査において「総合判定が劣化しているため修繕が必要」または「主要部材が劣化しているため使用不可」と 18 基が判定されている。またバリアフリー適合の有無は 12 基で、半数以上が未整備の状況である。公園トイレの更新を可能な限り短期間に進めること。また、老朽化し活用頻度の低いトイレに関しては更新、維持管理費も考慮し今後の整備を検討すること。

#### **【苫小牧市／公園における既存施設の活用】についての提言**

指定管理者である緑豊建設さんの利用者に対しての想いに熱量があり、ビジネスやキャッシュポイントよりもお客様ファーストの理念が大切であることを学ばせてもらった。そういう理念のある指定管理者を、土木局に限らず当局には見極めて頂きたい。

#### **【千歳市／グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進】についての提言**

令和 5 年 6 月定例会の委員会で『臨海部土地利活用構想の検討状況について』の報告がなされたが、当局答弁は、県や外部有識者等の知恵や考えはなく、西宮市だけで検討している旨の発言がなされたと認識している。委員からも意見がなされていたが、過去の経験からも早期の外部有識者の検討をすべきである。また、千歳市ご担当者様も絶対に市単独で考えるものではなく、外部有識者を巻き込んで構想、推進すべきであると仰っている。上記を踏まえて、構想を検討すべきである。



# 委員会行政視察報告書

委員氏名 松本 たかゆき

調査の期間	令和5年(2023年)10月31日(火)～11月2日(木)
調査先 及び 調査事項	芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について 札幌市 ・身近な公園の再整備について 苫小牧市 ・公園における既存施設の活用について 千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成と エリアマネジメント推進について

## 芦別市 施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

### 【概要】

芦別市の公園はその約7割が整備後30年を経過し、遊具や休憩施設などの老朽化が進行していた。同時に少子高齢化やライフスタイルの変化によって利用者ニーズと公園機能との間に乖離が生じ公園の利用が低調になっているという課題もあった。

そこで町内会を通じて地域住民の意見を集約し、地域性や利用者層に見合った特徴ある公園に整備していく計画を策定している。公園の特徴は町内会毎でバランスを考慮して配置するとともに、施設や利用の状況を踏まえた管理基準を設け、施設の更新、維持、撤去の方針を設定している。

芦別市は少子化が著しいため、各公園での子供用遊具の新規整備はしていない。しかしながら、多くの人が利用する道の駅に子供用遊具が新設されており、こちらの遊具が好評であるとのこと。

### 【当局への提言】

芦別市では利用者が極端に少ない公園を近年2園廃止している。本市においては、今後人口減少が見込まれる中、既存の公園施設を既存のクオリティで維持管理するこ

<p>とは当然ながら現実的では無い。そこで廃止する公園も出てくることが予想されるが、その選択にあたっては、利用している住民の方からの反対の声があることは想像に難くない。</p>
<p>しかしながら、市全体の公園施設の維持管理のため、人口減少が進んでいる地域においては、廃止の選択でやむなしという事態に直面するであろうことから、「公園を廃止する基準」となるものを事前に整備されたい。</p>
<p>また、整備計画等を策定する際は「公園とは何のために必要なのか？」という原点に立ち返り、その目的を明確にされたい。(例えば、「憩いの場として」という目的であるならば、代替となる空間や施設等が近くにある場合は、その機能を当該公園に持たす必要は無い、といったような取捨選択を希望する。)</p>
<p>札幌市 身近な公園の再整備について</p>
<p><b>【概要】</b></p>
<p>札幌市は本市同様に、「地域間における公園の偏りや機能の重複」や「施設の老朽化」といった課題を抱えている。そこで公園整備に関わる施策を具体化するため、「札幌市公園整備方針」を策定し、公園の配置、種類、施設の視点から施策を設定し、身近な公園の再整備等を進めている。公園整備のために市民の声を聞く機会やアンケート等の実施はしていない一方で、市民アンケートでは65.1%の市民が「身近な公園に満足」と回答しており、一定の満足度を得ている。</p>
<p><b>【当局への提言】</b></p>
<p>公園は多様な市民が利用する分、そのニーズを全て満たすということは極めて難しい。札幌市では市が主導的に整備した結果、その過半数以上が満足していることから、必ずしもパブコメや説明会等で意見の吸い上げが必要であるとも言い切れない。ノイジーマイノリティという考え方もあることから、市主導で全体のバランスを見た中で</p>

の整備を期待されたい。

## 苫小牧市 公園における既存施設の活用について

### 【概要】

市所有のスポーツハウス（昭和 44 年建設）、サイクリングターミナル（昭和 59 年建設）の利用者が減少し、それぞれ平成 26 年、平成 27 年に廃止。併せて同時期に市内に民間宿泊施設が複数件、廃業となり、スポーツ合宿・大会等の受入れが困難となる。そのような中で、上記 2 施設を無償貸付けによる公募型プロポーザルによって再利用したという事例。当初のプロポーザルは応募者無しで不調に終わる。応募見込みのあった業者にヒアリングした結果、貸付期間の延長、貸付範囲の限定（サイクリングターミナルのみ）等の条件変更が必要であることがわかり、最終的に公園を既に管理している事業者を選定をした。初年度はほぼ収支±0 というような事業であったが、事業者が地域貢献の想いから条件を飲んだというのが背景にある。実際に当該施設を視察したところ、ほぼほぼリノベーションはしておらず、軽微なリフォームで利用している。

しかしながら、民間の宿泊施設の宿泊相場を考慮した金額設定や、利用者目線に立った設営（例えば、試合前日のコンディションを考えたトレーニングルームを設けている）などで、利用者は着実に伸び、今年度は年度半ば過ぎた頃で既に黒字見通しも立っている状況。

### 【当局への提言】

利用されなくなった施設をハード面はほぼほぼ手を加えず、民間の管理（ノウハウ）で立て直したという好事例であり、本市の公共施設マネジメントにおいても、採算が悪くなった施設については「手法を変えれば（民間への委託など）、そのまま利用できるのではないか」といった観点を第一に持っていただきたい。



千歳市 グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

**【概要】**

防火や市民の健康保全を目的として街の中心部に設置された広場を官民一体となつて活用している事例。千歳市の中心市街地におけるまちづくりの考え方は（以下、引用）「人を呼び込み消費を目的とする施設を誘致・整備してにぎわい創出を図るまちづくりは、継続的なまちの活性化にはつながらない。ビジネスや文化交流など具体的な目的を持った人々が必然的に集積し、持続的に昼夜間人口を生み出す機能を整え、そのエリアの価値を育てるエリアマネジメントを進めてこそ、継続的なまちの活性化につながる。」としており、実際に話を聞くと市が関与し過ぎず、あくまで補助的な立場を取っていると感じた。その結果、民間主導で様々なアイデアが生まれ、街の活気に繋がっていることがわかる。

**【本市への提言】**

今後は益々民間活力の導入が進んでいくと予想されるが、その中で千歳市が心掛けられているような「市が肩入れし過ぎない」という視点を大事にしていきたい。また新事業に限らず、既存の事業継続においても、「改めて市がやらなければならないものか」を常々検証していきたい。

以上

# 委員会行政視察報告書

委員氏名 川村 よしと

調査の期間	令和5年（2023年）10月31日（火）～11月2日（木）
調査先 及び 調査事項	芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について 札幌市 ・身近な公園の再整備について 苫小牧市 ・公園における既存施設の活用について 千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成と エリアマネジメント推進について

## ■芦別市：施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

札幌市からバスで片道2時間ということで、視察の機会がなければおそらく訪れる機会はなかったかもしれない。

バスを降りると雪虫と呼ばれるアブラムシの一種が大量に飛んでおり、マスクをせずに歩いていると目や口や鼻の中に虫が入ってきてしまうほどだった。そんな中でも、子供たちは雪虫を気にするそぶりもなく元気に公園で遊んでおり、西宮市内で見かける子供たちよりも逞しさを感じた。

芦別市都市公園再整備計画の中で気になっていたのが、どのように各地域のニーズの把握を行なっているのかということである。現地でヒアリングをした限りでは「町内会等を通じて意見を聴取し、その結果として、小学生の年代が使えるものを設置した公園中心に整備していく」という方針で施策を推進したとのことだったが、定量的な調査を行わずに聞き取りのみで決定できるというのに良くも悪くもではあるが驚いた。定量的な数値で言うと、公園の利用者数を水道使用量で割り出している点については、やや不正確なのではという気がした。

また、雪の降る地域であるため、公園は10月31日から翌年の4月15日まで閉園し

<p>ているとのことで、その点も当然ではあるが西宮市とは状況が大きく異なるものの、</p>
<p>雪の降らない時期の管理の仕方は一般的であり、公園の掃除や草刈りについては、町</p>
<p>内会や老人会に委託しており委託金額の年間総額は約 6000 万円であるとのことだっ</p>
<p>た。</p>
<p>本計画の策定については、担当は1人だけで適宜部署内の会議で相談という形を取っ</p>
<p>ており、計画モノの策定にかかる工数は西宮市においてももっと削減できるのではと</p>
<p>いう印象を受けた。</p>
<p>若者に定住・定着してほしいという気持ちを持ってまちづくりをしているものの、年</p>
<p>間出生数は 30～50 名であり、地域の公園の充実と紐づける余裕はないとのことで、</p>
<p>子供が楽しめるような公園は道の駅に作ることで補完的な役割を果たしているという</p>
<p>ことだった。</p>
<p>子供が楽しめるような公園は、カナディアンワールドという公園を任意団体が運営し</p>
<p>ており、割と人気がある状態を保ち続けているようである。元々は赤字の第三セクタ</p>
<p>ーだったが、地域からの強い要望があり市が土地を無償貸与することで運営を継続で</p>
<p>きているとのことだった。</p>
<p>残念ながら、西宮市に持ち帰ってすぐに活かせそうな内容は見受けられなかったが、</p>
<p>芦別市での視察において最も印象に残ったのは議会事務局の若手女性職員（A さん）</p>
<p>の質疑応答時の積極的な姿勢についてであった。カナディアンワールドについての質</p>
<p>疑の際に、今回の担当部局の所管外の話であったものの、偶然、A さんが以前担当し</p>
<p>ていた仕事であったということで、臨機応変に質疑に対応していただいた。</p>
<p>他部署の年齢も役職もかなり上に当たる方がいる中で、臆せず私たちの質疑に対応す</p>
<p>る様子は非常に頼もしく感じられた。また、その内容も要領を得ており大変優秀な印</p>
<p>象を受けた。</p>
<p>先に述べた、計画の策定に担当が一人ということと関連しているのかもしれませんが、</p>



職員数が少ない分、ひとつの仕事に無駄に人数・工数をかけずにそれぞれが責任を持って職務をこなしているからこそできる対応であり、西宮市職員の同年代・同職位の方は、残念ながら A さんのような対応はできないだろうなという印象を受けた。
議場見学の際に A さんに話を聞いたところ、生まれも育ちも芦別市で、写真が趣味(芦別市は星空が美しいことで有名)ということもあり芦別市役所に就職したとのことだったが、西宮市においても、宮っ子が地元に着愛を持ち続けて西宮市役所に就職してくれるようになればと思わずにはいられないエピソードであった。
視察テーマとは違うところ、今回で言えば若手職員の仕事に取り組む姿勢や能力、そして地元愛という点で、芦別市は西宮市よりも先を行く自治体であると感じた。
(当局への提言)
視察テーマとは離れてしまうが、ひとつの業務の担当を最小限にすることで責任感が生まれ、職員の成長に繋がることが A さんの対応でよく分かった。今後、人件費の削減が急務の西宮市において、ひとつの事務事業にかける人数を減らし、役割を明確にして若手にもっと裁量権を持たせるような仕事の進め方に改善していくべきである。
■札幌市：身近な公園の再整備について
芦別市と同様に公園に関することが視察のテーマではあるものの、政令指定都市であることや立地的な意味合いから財源や土地が西宮市と比較すればある程度確保できているということで、前提条件が異なることを踏まえての説明の聴取となった。
課題としては、約 7 割の公園が造成から 30 年を経過、10 年後には 9 割になるということ、つまりは公園施設の老朽化をはじめ、地域間における身近な公園の整備状況の偏り、ニーズの変化と機能重複が挙げられていた。
これらを、新規整備、拡張、機能分担・統合という手法で計画的に解決する流れにな

<p>っているが、政令市ということで気になったのが、それぞれの区から選出された議員</p>
<p>からの要望が重なることで優先順位に影響を及ぼす可能性はないのかということであ</p>
<p>った。回答としては、議員からの要望はそれぞれ存在するものの、それらの声も踏ま</p>
<p>えての計画を策定しているというものであったが、担当職員の冗談めかした笑いから</p>
<p>察するに、要望の整理には苦慮したのではないかと推察された。</p>
<p>要望に関して、街区公園の再整備に際しては周辺の町内会や保育施設へのアンケート</p>
<p>調査や聞き取りを行ない、それを踏まえて素案を示して意見交換会を実施しており、</p>
<p>丁寧な仕事を進めてきたのだという印象を受けた。</p>
<p>また、芦別市とは異なり冬場でもそり遊び等ができる築山や広場の整備をしたり、覚</p>
<p>書を交わした場合は雪置き場として公園を開放していたり、臨機応変な活用がされて</p>
<p>いる。</p>
<p>トイレの数も全体で 900 棟、街区だけでも 500 棟という数の多さであるが、こちらに</p>
<p>ついては更新時期を迎えた中で利用の少ないものについては地域の理解を得ながら廃</p>
<p>止を進めているとのことであった。</p>
<p>喫緊の課題として、公園施設全体の老朽化に伴う予算不足を挙げており、政令市であ</p>
<p>ってもこの点については本市と同様(どこの自治体も財源不足と言うのかもしれない</p>
<p>が)なのだとすることを再認識した。</p>
<p>質疑終了後の立ち話で担当職員の方が仰っていたのが「計画を策定し、アンケートも</p>
<p>含めた調査をすることが、公園再整備の必要性の周知につながる」ということであっ</p>
<p>た。確かに、住民の声を聞くことは重要であるが、考えを聞くことは即ち市の考えを</p>
<p>広めることでもあるということ念頭に置けば、聞き取りの方法については様々な手</p>
<p>段を試すべきであろう。</p>
<p>また、視察項目とは離れるが、札幌市役所がメインで使用しているロゴ(SAPP_RO)や</p>
<p>ポスターのデザイン・キャッチコピーが非常に洗練されており、都市ブランド発信の</p>

一助になっている印象を受けたので、作成は自前なのか外注なのか尋ねたところ、やはり外部のコンサル、制作会社が関わっているとのことであった。この点については西宮市も大いに見習うべきところであると感じた。

(当局への提言)

公園整備に関することに留まらず、アンケート調査や聞き取りを行なう際には「ニーズを聞き取る」という観点だけでなく「市の考えを周知する」という考え方の下で、あらゆる手法(紙媒体、SNS、直接の聞き取り等)をもって手を尽くすことが重要であると考えられるため、今後はその点に留意して調査を行なっていただきたい。

■ 苫小牧市：公園における既存施設の活用について

苫小牧市は、スポーツを通じて健康で逞しい心と身体をつくり、豊かで明るい都市を築くことを目的に、昭和 41 年に全国で初めて「スポーツ都市宣言」を行なっている自治体である。北海道にありながら雪が少ないことから「氷都」とも呼ばれ、アイスホッケーやスピードスケートが盛んである。今回は、公園における既存施設の活用ということで視察に伺った。

経緯としては、昭和 44 年に建設されたスポーツハウス、昭和 59 年に建設されたサイクリングターミナルが平成 6 年度をピークに利用者が減少し、結果的にそれぞれを平成 26 年 3 月、平成 27 年 3 月に廃止するに至った。同時期に市内の民間宿泊施設が 7 件廃業になり、スポーツ合宿や大会等の受入が困難となったため再利用の検討を行なった。

最初は、無償貸付による公募型プロポーザルで、条件は 2 施設で 10 年としたが応募者無しという状況になり、無償貸付期間を整備期間 2 年を加えた 22 年間にする等大幅な条件緩和を行なうことで現在の活用方法に落ち着いたとのことであった。



<p>本件の視察においては、座学よりも建物施設だけでなく運動公園、野球場、陸上競技場を歩いて見ながら話を聞いたことが大変有意義であった。</p>
<p>担当職員の方に「スポーツ都市宣言は苫小牧市民の方々に受け入れられていると思いますか？」と尋ねたところ、返事は芳しくなかった。ところが、民間の事業責任者の方に「なぜ先行き不透明な状況の中で手を挙げようと思ったのですか？」と尋ねると</p>
<p>「私は子供の頃から剣道をしていて自衛隊の剣術部隊に在籍していたので、スポーツに育ててもらったと感じています。その恩返しになればという気持ちがありました。」</p>
<p>という回答で、まさに、スポーツ都市宣言があったからこそそのプロポーザルの成功だと私は感じた。当人同士は気づいていない様子であったが、自治体が理念として掲げてきたことが目の前の人の行動、そして事業に繋がっており、大変心を動かされるエピソードであった。</p>
<p>西宮市にもいくつかの宣言があるが、それが市民の行動を動かし前向きな市の事業展開に繋がるものになるよう、行動を伴った宣言とすることが長い目で見た時に宣言の内容を街づくりに具現化するのだと感じた次第である。</p>
<p>野球場や陸上競技場の設備は、現場で見ないと伝わらないと思うが非常に充実しており、この場所で試合をできることが競技者のモチベーション向上に繋がることは、スポーツ経験者であれば容易に想像がつくであろう。</p>
<p>目的を持った施設整備の重要性を強く感じた現地視察となった。</p>
<p>(当局への提言)</p>
<p>宣言は、宣言するだけでなく行動を伴うことが長期的な視点での具現化につながる。</p>
<p>本市の中央運動公園整備に関しても、目的を明確にして整備を進めてほしい。</p>
<p></p>
<p></p>

■千歳市：グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

市の中心部は、かつて複数の商店街やデパートなどで栄えていたようである。しかし現在は、人口の増加やライフスタイルの多様化に伴い、郊外に住宅が増えることで日常的な活気は見えなくなった。この中心部を「まちの顔」として捉え直しつつ、時代の変化を捉えて目指したい将来像を「ちとせ未来ビジョン」として設定し、様々な施策を行なっていた。

苫小牧市同様に、座学の内容より実際に現地を歩きながらヒアリングした内容の方が充実していた印象である。実際に、企業や地権者、学生や地域団体などを巻き込んでユニークな企画を多数行なっていることは説明からよく理解できた。しかしながら重要なのは、それが市民に受け入れられているか、その上で今後の発展可能性があるかどうかである。この点についての疑問は、私の質問に対する担当職員の方の回答で氷解した。

「千歳市民の方に『グリーンベルトってどの辺りのことですか?』と尋ねたら話は通じますか?」と質問したところ「もちろんです。むしろ、通りの正式名称を言う方が正確に伝わらないと思います」との回答でした。要は「グリーンベルト」という言葉が広く深く市民に浸透しており、千歳市の今後のまちづくりの世界観に、グリーンベルトは既に欠かせない要素として存在しているのである。

西宮市では過去に、アサヒビール工場跡地を巡るエリア開発の中で「ダイヤモンドゾーン」という言葉が突然出てきたことがあったが、あれとは雲泥の差である。

苫小牧市での所感と似通った話になるが、言葉を打ち上げるだけでは意味をなさず、具体的な行動を積み重ねることで少しずつ目に見える成果になっていく。それが都市ブランド発信だったり拠点形成やエリアマネジメント推進だったりするのだと私は考える。





# 委員会行政視察報告書

委員氏名 草加 智清

調査の期間	令和5年（2023年）10月31日（火）～11月2日（木）
調査先 及び 調査事項	<p>芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について</p> <p>札幌市 ・身近な公園の再整備について</p> <p>苫小牧市 ・公園における既存施設の活用について</p> <p>千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成と エリアマネジメント推進について</p>

<b>芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園整備について</b>
・やはり限られた予算の中で、公園の維持管理をしていかないといけないのと、
我々の市と違い、冬季の雪対策費用が必要なので公園の整備以前に、維持管理
をしていくことだけでも大変である。そのような厳しい環境の中で、公園施設
超寿命化計画（H26.3月）と都市公園再整備計画（H31.3月）を策定されて
いる。芦別市都市公園再整備計画の中で、都市公園等整備計画表が掲載されて
おり、拝見しますと42箇所の公園全てを
<b>使用頻度 使用人数（目安）</b>
A：月に200人～
B：月に100人～
C：月に30人～
D：月に30人まで
<b>管理基準及び計画上の位置付け（管理・計画）</b>
A：積極的に再整備し、遊具等の入れ替えを優先的に行う
B：現施設は状況により補修・移設等により維持する

C：最低限の補修とし、補修が不可なら撤去
D：基本的に破損した施設・遊具等については撤去する
というように使用頻度、使用人数と管理基準及び計画上の位置付けをA～Dに
ランク分けをしている。
その中で、Dランクの1月の利用人数が30人までの利用頻度が低い公園につ
いては、破損した施設や遊具については撤去するという事で、Dランクの公
園の中には、当然、遊具もベンチもない公園が存在してくるということで中途
半端なことはしないで徹底している。少子高齢化の人口減と併せて、昔、芦別
市は炭鉱のまちでピーク時には7万人以上の人口があったのが、現在では約1
万2千人ということで、公園利用者がほとんどなくなったことと併せて、
極端な表現になるが、公園がなくても市域全体が自然環境に非常に恵まれて
おり、公園がなくても市域のほぼ全体が公園みたいなものであるので可能な
ことであって、我が市では現実的にはなかなか考えられないが、限られた予算
の中で、年間の維持管理費を少しでも抑えるためには、有効な方法であると思
う。今後、この計画をどこまで実施していけるかによって経費抑制の効果の実
証が変わってくるので、積極的に進めて欲しい。
<b>(当局への提言)</b>
利用頻度が低い公園のトイレについては、すでに我が会派の同僚議員が6月
の一般質問の中で提案しており、繰り返しになりますが、市内の全公園のト
イレの老朽化調査と併せて、利用頻度の低いトイレについて、調査を進めら
れて公園周辺利用者の理解をできるだけ得るようにしながら、公園利用者が
ほとんど利用しない、利用するのはタクシーの運転手か宅配便の運転手くら
いの、老朽化したトイレについては、芦別市の公園再整備計画の中の取り組
み内容の中で示されていたように撤去していくべきであり、本市でもそうす

ることによって、年間の維持管理費を抑えていくべきである。早急に実施に向けて取り組まれるように強く要望する。
<b>札幌市 ・身近な公園の再整備について</b>
・札幌市のこれまでの公園整備の経緯としては、一言で表現すると量を増やす取組を積極的に進めてこられたので、その結果、全国の政令指定都市の中で公園の数が最も多い（公園数の推移：2018年度・2741ヶ所）。しかし、平成元年から「個性あふれる公園整備事業」や「福祉と多世代のふれあい公園づくり事業」など、身近な公園についても地域住民の要望を広く取り入れた再整備を行っている。とは言え 2741ヶ所の概ね 70%の公園が、造成から 30 年を経過しており、老朽化が進んでいる。施設量が多いことから、更新や維持管理の負担が増大している。
当然、札幌市公園整備方針の中で公園施設の長寿命化計画も進められている。札幌市独自の考え方としては、公園施設は膨大な量であり、老朽化が進んでいるのと雪害による施設破損も多いので、今後の更新・維持管理費は膨大になることが予想される。したがって、施設量の見直しや適正配置を進め、より一層の効率的・効果的な取り組みを行なって、コスト削減を図っていく必要がある。
当然のこと札幌市でも少子高齢化に伴い地域ニーズが変化している等により、
①公園機能の重複や地域ニーズのとのずれ
②有料運動施設の施設規模と利用状況とのずれ
③公園トイレ数が多く、利用の少ないトイレ
この 3 点の課題を挙げて、長寿命化計画策定にあたり、札幌市独自の考え方を基本方針に盛り込んだ計画として、より効率的・効果的に進められている。やはりここでも気になることが札幌市の公園の利用頻度が低い公園トイレにつ

<p>いてである。札幌市の公園トイレの存続の考え方については、</p>
<p>①近隣公園以上の公園トイレは存続</p>
<p>(近隣公園以上は、公園利用者の長時間滞在が想定される)</p>
<p>②街区公園の公園トイレは更新時に廃止を前提に検討</p>
<p>(街区公園は調査の結果、利用の少ない公園が多いため)</p>
<p>③街区公園でも遊水路のある公園トイレは存続</p>
<p>(公園利用者が多い)</p>
<p>④存廃の判断は、地域住民と話し合い、利用状況や配置バランス等を見極めた上で最終判断</p>
<p>◎「利用が多い」「ニーズが高い」公園トイレは存続とするが、存続の場合でも小規模トイレに変更したり、清掃作業を地域に任せたりする等、更新や維持管理のコスト削減方法を検討している。身近な公園の利用頻度が低いトイレの廃止については、平成 24 年度に実施された市民アンケートによると、6 割以上が妥当であるとの回答で、反対は約 2 割であったということです。</p>
<p>公園トイレの維持管理コストですが、札幌市の公園トイレは、全国の政令都市の中で最も多い 888 棟で、維持管理や更新費の負担が大きいのは当然ですが、</p>
<p>驚いたのが、1 年の維持管理費の中でトイレ 1 ヶ所の維持管理費用が 35 万と</p>
<p>いうことで、我が市と比べてかなり安く抑えられていることが意外でした。</p>
<p>やはり政令市でも規模の大きさの違いはありますが、少子高齢化に伴い地域ニーズの変化等による公園の利用状況の変化やトイレを含む公園施設の老朽化</p>
<p>など、特に公園数が多いのと比例して老朽化した和式のトイレが多いということも含めて、抱える問題や課題については、ほぼ同じようなことが多い。さらに北国ということで、雪害による被害についても、考えておかないといけないことが大変である。</p>

(当局への提言)
やはり政令指定都市でも、老朽化した公園のトイレに関する抱える問題は本市と規模が異なりますが、ほとんど同じである。繰り返しになりますが、本市においても、札幌市の未来につなぐ、メリハリのある公園づくりの整備方針にならって公園利用者がほとんど利用しない老朽化したトイレについて、本市でも、30年以上経過した老朽化した和式トイレが100ヶ所以上ありますが、早急に調査をされて基本的な方針は撤去ということで、老朽化したトイレが存在する公園利用者の理解を得るようにしながら、実施に向けて取り組むべきである。まず、そのことに取り組むことによって、一時的には、費用がかかっても、現在のままで放置しておくよりも、将来的には維持管理費が抑えられる。それと札幌市では、トイレ1ヶ所の年間の維持管理費用が約35万ということで、安価に抑えられていることを参考にして維持管理方法について、見直しを図るべきである。
<b>苫小牧市 ・公園における既存施設の活用について</b>
・公園における既存施設の活用ということで、苫小牧市総合政策部まちづくり推進室・スポーツ都市推進課の畠山さんと緑豊建設株式会社の矢野さんから、緑ヶ丘公園内のスポーツ施設と隣接した大会団体宿泊・スポーツ合宿施設の多目的宿泊施設 TOMARO の説明を受けたが、まず、これまでの経過に至っては、平成27年に市内の民間宿泊施設7件が廃業となり、スポーツ合宿・大会等の受け入れにあたり、宿泊施設が不足している状況となったため、さらなるスポーツ合宿等の誘致及び公園利用者の利便性向上を図ることを目的に活用できないか、再利用できないかということで検討されたことがきっかけで、遊休施設の有効活用ということで、公園における既存施設の活用について検討された。



過去に苫小牧市は全国で初めて「スポーツ都市宣言」をしている経過もあり運
動施設は充実している。しかし、施設の老朽化に伴い、解体費用等の経費も必
要なことから、解体する前にもう一度有効活用ができないかということで、平
成 30 年度に「無償貸付による公募型プロポーザル」を実施されたが、条件が
2 施設 10 年ということで、10 年間の貸付期間では採算が見込まれない、旧ス
ポーツハウス及びサイクリングターミナルの 2 施設を同時に改修して営業さ
せるのはリスクが大きい、スポーツハウスの老朽化が著しいため、サイクリン
グターミナルのみの利活用を検討したいということで、応募者が全くなかった。
そこで条件を緩和して、無償貸付期間を見直し、整備期間 2 年を加えた 22 年
間と、サイクリングターミナルのみの貸付け、スポーツハウスの解体を含む、
サイクリングターミナルの無償貸付公募型プロポーザルとし、条件を緩和され
た。区分については緑ヶ丘公園については、公園全体、展望台、金太郎の池、
パークゴルフ場等は緑地公園課・指定管理。スポーツ施設 7 施設については、
スポーツ都市推進課・指定管理とし、緑ヶ丘公園とスポーツ施設を別々に選定
された。よって、緑ヶ丘公園は苫小牧市都市公園条例・施行規則、スポーツ施
設は各施設条例・施行規則ということです。
公募の条件が緩和されたことにより応募者があり、その応募者が、視察当日に
市の畠山課長と併せて説明を受けた、緑豊建設株式会社統括責任者の矢野さん
です。条件が緩和されたとはいえ、できるだけ費用がかからないように知恵を
絞って、リノベーション等をされて、令和 5 年度では、宿泊日数 90 日、稼働
率 42% (R5.10.25 現時点) となっており、交通の利便性も良く道外からの利
用もあり、今後の見通しとしても、使用料金が安価なこともあり今後もさらに
稼働率も上がっていくとのことです。付け加えますと、TOMARO では事前 (5
日前) に食事等の人数を確定され、すべての食材を予約前に準備し、ストック

<p>を持たないことで低価格での提供を行なっているのが素晴らしい。</p>
<p>繰り返しになりますが、過去に全国初でスポーツ都市宣言を行なっているだけ</p>
<p>あって、自然環境に恵まれた中、野球場はじめ陸上競技場、サッカー場、ラク</p>
<p>ビー場、パークゴルフ場、テニスコートもあり、時間の関係で陸上競技場と野</p>
<p>球場を見学させて頂きましたが大変充実したスポーツ施設であり、当然、北海</p>
<p>道ということで見学中の移動の途中で野生の鹿と出会うなど自然環境にも恵</p>
<p>まれた、緑ヶ丘公園とスポーツ施設の中の既存施設、TOMARO は素晴らしい</p>
<p>多目的宿泊施設でした。</p>
<p><b>(当局への提言)</b></p>
<p>北海道という自然環境に恵まれた苫小牧市の施設 TOMARO は多目的の宿泊</p>
<p>施設で、交通の利便性も高く、ある意味、非常に恵まれた環境の中での施設で</p>
<p>あり、非常に羨ましいと感じましたが、このような環境の中での施設であって</p>
<p>も、当然、建物は老朽化しますし、時代にあった取り組みをしないと時代の流</p>
<p>れに取り残されてしまう。できるだけ費用がかからないよう、民間の活用に取り</p>
<p>組まれた TOMARO は、公園における既存施設の活用に真剣に取り組まれ</p>
<p>た結果であり、素晴らしい。そこで、TOMARO とは対照的に建物の老朽化が</p>
<p>進んでも、応急処置だけで、将来的に大規模改修の見通しが見えないことが想</p>
<p>定されていたのにもかかわらず、毎年 1 億円以上の税金を投入されて、苫小牧</p>
<p>市の TOMARO の取組のように将来に向けて真剣に検討することもなく、</p>
<p>R2.11 月に閉館された健康増進施設のことがどうしても思い起こされます。</p>
<p>我々の会派が、約 10 年前から現状のまま放置せずに民間活用か見切りをつ</p>
<p>けるか、判断するべきではないかと指摘をしてきた経過がありますが、閉館か</p>
<p>ら約 3 年経過しても、議会に報告できるはっきりとした具体的な取組内容は</p>
<p>示されていません。</p>

<p>閉館したリゾ鳴尾浜は宿泊施設でもなく、苫小牧市の TOMARO とは根本的に違いますが、しかし取組姿勢が全く違います。苫小牧市の公園における既存施設の活用の取組のように、もっと真剣に取り組んでいたら、併せて、我々の会派の指摘をもっと真摯に受け止めて取り組んでいたら、これまでの結果とは、違っていたはずだと思います。もっと無駄な税金の投入を抑えられたと思いますし、そのことによって、他の公園や公園トイレのリニューアル化を進めることが可能になることを思うと非常に残念に思う。責任を感じ、施設の再整備を進めることで、責任を果たしたいと答弁されたことを忘れずに、深く反省されて、今後、リゾ鳴尾浜の再整備を含む臨海部土地利用構想について真剣に取り組んで貰いたい。</p>
<p><b>千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について</b></p>
<p>・千歳市は、平均年齢が 44.3 歳と、北海道で一番若く、人口は 97,950 人で、人口の増加率は道内市部で第 1 位の人口が伸びているまちです。空港のまちとも言われており、まちの中心部から空港まで車で約 10 分と市民にも観光客にも大変便利であり、北海道の玄関口である令和元年の年間乗降機客数が 2460 万人で 6 年連続で過去最高を更新しています。自衛隊のまち、水のまち、企業のまち、農業のまちとも言われていますが、今回の視察では千歳市のまちの顔としてのグリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について、勉強させて頂きました。千歳市の未来ビジョンの実現に向けた取組の中の一つであるグリーンベルトと合わせて、千歳川、道路などの「公共空間」、空き地や空き店舗などの「民間不動産」など、さまざまな空間資源を柔軟に活用し、地域と時代のニーズに対応し、市民だけでなく、来訪者の滞在や滞留を</p>

<p>促し、色々な楽しみを呼び起こすことを目指しているエリアです。やはりこ</p>
<p>も、新千歳空港からの良好なアクセスにより発展したホテルや飲食などの商圏</p>
<p>があり、事業としては、グリーンベルトや河川を活用する計画となっています。</p>
<p>その中で、未来ビジョンの実現に向けた取組としてグリーンベルトで初めてと</p>
<p>なる焚き火を使ったイベントや、市内最大の集客力を誇る航空祭とコラボした</p>
<p>イベント、千歳川のサウナ体験などの実証実験を行い、そこから得た課題につ</p>
<p>いてさらに取り組んでいる。たくさんの人・もの・ことが集まり、楽しく過ご</p>
<p>せるまちのリビング、特にグリーンベルトや隣接して流れている千歳川などの</p>
<p>資源を活用した楽しみと出会えるエリアとしての空間資源の活用がなかなか</p>
<p>充実している。とにかく取り巻く環境と交通の利便性などの特徴を生かしなが</p>
<p>ら、ちとせ未来ビジョンに共感する市民が主役ということでの基本的な取組姿</p>
<p>勢が、大変良い。素晴らしい。</p>
<p><b>(当局への提言)</b></p>
<p>千歳市のグリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進に</p>
<p>ついては、本市で、すっぽりと当てはまるエリアは現時点ではなかなか思いつ</p>
<p>きませんが、そのことは別として、千歳市の取組のような、主役はちとせ未来</p>
<p>ビジョンに共感するのはあなたたちですと謳っているように、みんなで目指す</p>
<p>将来像が見える、みんなで取り組む方向性が見えるというような、人が自然と</p>
<p>集まってくるようなシンボリックな拠点場所がない中で、未来ビジョンの実現に</p>
<p>向けた取組は本当に素晴らしい。とにかく、どんな取組であっても、基本は千</p>
<p>歳市の取組のようにできるだけ多くの市民が主役ということ意識されて、未</p>
<p>来に向けて継続して取り組んでいける仕組みづくりのある進め方について、今後</p>
<p>の本市の取組を進めるにあたって十分に参考にして貰いたい。</p>
<p></p>

# 行政視察報告書

委員氏名；坂 上 明

## 札幌市

札幌市は、人口約 196 万人を有する政令指定都市であり、世界に誇る我が国の観光都市である。

### テーマ；身近な公園の再整備について

札幌市は、「大通公園」や「モエレ沼公園」といった様々な特色ある公園を有しており、市民や国内外の観光客に親しまれており、その数は 2, 742 箇所(12.8 ㎡/人)と政令指定都市の中で最も多く、また市民に最も身近な公園である街区公園の整備も進み、市全体としては一定の充実が図られている。

一方で、少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、それに伴う経済資源の制約など、札幌市を取り巻く状況は転換期を迎えようとしている。

また施設の老朽化、地域間における公園数の偏りや公園機能の重複といった課題を抱えており、この状況に対応する為、令和 2 年に「第 4 次札幌市みどりの基本計画」を策定し、公園や緑地に関する施策の大きな方向性を示したところであり、そこに示す公園整備に関する考え方を具体的に整理した「札幌市公園整備方針」を策定した。

#### 「札幌市公園整備方針」

**現 状**；公園数や面積は上記の様に一定の充実が図られており、様々な特色ある公園が整備され、一定の満足度を得ている(市民アンケート「身近な公園に満足」65.1%)

**課 題**； ① 地域間における身近な公園の整備状況の偏り

- ・都心等の既成市街地は、近年の人口増加に対して身近な公園が不足している地域がある。
- ・郊外は、宅地造成に伴う公園造成等により狭小な公園が密集している地域がある。

② 公園施設の老朽化の進行

- ・約 7 割の公園が造成から 30 年を経過(10 年後には 9 割)。
- ・更新や維持管理の負担が増大(10 万施設)

③ ニーズの変化と機能重複

- ・地域ニーズの変化等により利用の少ない施設が増加。
- ・近接する街区公園で機能が重複。

☞ 国の動向「都市公園法の改正(H29.6)・公募設置管理制度(park-PFI)の創設・等々」もあり、[第 4 次札幌市みどりの基本計画(R2)]を策定した

扱て、札幌市ご担当者から一連のご説明を頂いた後、私からは近年の課題である子供の体力不足・運動能力低下という視点から質問をさせて頂いた。



→「大通公園の様な大規模な公園ではなく、地域に最も身近な街区公園の今後について」

○昨今、「キャッチボールが出来ない子供」・「自転車に乗れない子供」が増えてきている。放課後のあり方についても子育て施策の重要課題であるが、今後の公園整備について、子育て施策担当や教育委員会との連携、所謂横串施策について聞きたい。

→その意見を参考にして、今後連携をとっていきたい旨のご答弁を頂く。

※ R2に策定された「札幌市公園整備方針」は、現状・目的や将来像・その実現に向けた施策等、100ページに及び綴られている。

〈公園が持つ効果〉

- 1：防災性向上効果；災害発生時の避難地、防災拠点等になる事で都市の安全性を向上させる。
- 2：環境維持・改善効果；生物多様性の確保、ヒートアイランドの解消等の都市環境の改善をもたらす。
- 3：健康・レクリエーション空間提供効果；健康運動、レクリエーションの場となり、心身の健康増進等をもたらす。
- 4：景観形成効果；季節感を享受できる景観の提供、良好な街並みを形成。
- 5：文化伝承効果；地域の文化を伝承、発信する。
- 6：子育て、教育効果；子供の健全な育成の場を提供する。
- 7：コミュニティ形成効果；地域のコミュニティ活動の拠点となる場、市民参加の場を提供する。
- 8：観光振興効果；観光客の誘致等により地域の賑わい創出、活性化をもたらす。
- 9：経済活性化効果；企業立地の促進、雇用の創出等により経済を活性化させる。

・・・・・・・・・・国交省「都市公園のストック効果向上に向けた手引き」より

◎札幌市の取り組みについては「札幌市公園整備方針」でもわかる様に、その状況に応じて事細かく策定されている。西宮市とはその規模こそ違え学ぶべきもの、参考にすべき事を抽出し、施策に反映していく必要がある。

## 苫小牧市

太平洋に臨む苫小牧市は、人口16万8千人。北海道で4番目に人口が多い都市である。

国際拠点港湾である苫小牧港と空の玄関口「新千歳空港」のダブルポートを擁する交通の要衝として、多様な産業が集積しており、海上輸出貨物量は、道全体の約半分を苫小牧港が担っており(全国3位)、北海道をけん引する産業拠点として発展する活気みなぎる街である。

海に面する漁港とあって、海の幸の宝庫であり、中でも全国一の水揚げ量のホッキ貝は年間漁獲量が約800トンと、21年連続(2000年～2020年)日本一を誇っている。

また、全国初の「スポーツ都市宣言」を行っている。

### [ スポーツ都市宣言 ] 氷都 苫小牧

スポーツを通じて健康でたくましい心と身体をつくり、豊かで明るい年を築く事を目的に、昭和41年

に全国に先駆けて「スポーツ都市宣言」を行い、以後、多様なスポーツ活動に対応できる様、施設の整備充実に力を入れている。

雪が少ない本市は、「氷都」とも呼ばれ、アイスホッケーやスピードスケートが盛んなスケートの街としても有名である。… 雪が比較的少なく、スキーよりスケートが盛んで、学校のグラウンドには必ずリンクがある

## テーマ;公園における既存施設の活用について

### 経緯等について

○民間活力の活用に至った経緯について

スポーツハウス(S44 建設) サイクリングターミナル(S59 建築)

→ しかし、H6 年度をピークに利用者が減少し、スポーツハウスを H26 年 3 月末、サイクリングターミナルを H27 年 3 月末で廃止する

H27 年度当時、市内の民間宿泊施設の 7 軒が廃業するなど、スポーツ合宿・大会等の受け入れにあたり、宿泊施設が不足している状況となった為、再利用を検討する

↓

更なるスポーツ合宿等の誘致及び公園利用者の利便性向上を図る事を目的に活用する

### 遊休施設の有効活用!

↓

対象となる 2 施設の「無償貸し付けによる公募型プロポーザル」を行い、有効に活用される民間事業者等を広く募集(H 30 年度)…条件：2 施設 10 年

↓

しかし応募者はなく、事業者の声を基に条件を緩和

- ① 無償貸付期間を見直し、整備期間 2 年を加えた 22 年とした
- ② サイクリングターミナルのみの貸し付けとする
- ③ スポーツハウスの解体を含む、サイクリングターミナルの無償貸付公募型プロポーザルとした

↓

公園内にはスポーツ施設が 7 つあるという事もあり、施設(TOMARO)の利用者等については

(1) 主な利用者

スポーツ団体、学校部活動等(学校関係者)、大学スポーツ部及びサークル、吹奏楽、企業研修会 等

(2) 令和 4 年度 … 宿泊日数 73 日 稼働率 20%

令和 5 年度 … 宿泊日数 90 日 稼働率 42% (R5, 10, 25 日現在)

(3) 道外からの利用もあり

(4) 市の内外問わず、すべて同一料金としている

### 苫小牧市の公園全般について

苫小牧市は道内でも積雪が少なく、年に何度か公園トイレから出入り口までの園路を除雪する程度で、基本的には冬期に於いても公園の利用は可能という事。

冬期ならではの公園利用方法としては、雪合戦や雪だるまづくりの他、築山を利用したソリ遊びやミニスキー遊びをする子供の姿があるらしい。

その他、本市のシンボリックな公園として、錦大沼公園というオートキャンプ場併設の総合公園があり、冬キャンプや歩くスキーの他、厳冬期にはワカサギ釣りなどを楽しむ事が出来るという。

尚、今後人口減少が更に進むものと推計されており、縮小する将来の財政規模に応じて、公園についても維持管理費を削減していく為、管理しなければならない公園の削減の他、遊具やトイレ等の施設数の削減について検討していく必要があるという事。

扱て、TOMARO と同時に、広大な緑ヶ丘公園内の主な施設(野球場・陸上競技場)の見学をさせて頂いた。錦秋に染まる公園内には野生のシカが数等現れ、我々には珍客ではあるが、地元の方にとっては馴染みの客らしい。

「スポーツ都市宣言」もあってか、スポーツ施設はかなり充実しており、シーズンによっては、全国からアスリートが一層集結する事が予想される。

- ◎ 西宮市とは全く置かれている条件が異なるものではあるが、本市にも休眠状態の施設は点在している。数年後には完成するであろう総合運動公園は市民の憩いと賑わい、そしてスポーツ推進の場であると同時に、他市への「文教住宅都市 西宮」をアピールする施設でもある。点在する休眠施設の苫小牧市のような再利用も十分検討に値するものである。  
いずれにしても、厳しい財政状況を打破する必要がある中、「帯に短し、襷に長し」の施設整備には絶対にならぬ様、施策の推進を心掛けて頂きたい。

## 千歳市

千歳市は、「北海道の空の玄関口」である新千歳空港があり、国内線の東京(羽田)-札幌(新千歳)間の単一路線としては世界一の乗降客数を有している。札幌市中心部までは車でおよそ1時間、電車では約30分から40分でいくことができる人口9万7千人の街である。

## テーマ;グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

### グリーンベルトとは：「憩い・遊び・集い」の場

千歳駅から南西約350mに位置し、8箇所の広場が約1<sup>キ</sup>にわたってつながっている。

グリーンベルトは、S17年からS24年に防火を目的として整備されたもの。S59年からS62年の整備後、20年以上が経過し、施設の老朽化、樹木の繁茂による死角の発生、施設のバリアフリーなどの対応が課題となり、「グリーンベルト活性化事業」を実施する事となり、H21年からH27年を期間として国の再編交付金を活用し、樹木の整理や遊具の更新の他、イベント開催が可能なステージや千歳川を親しむ事が出来る空間を整備した。

## ○ちとせ未来ビジョン(グリーンベルト周辺のエリアマネジメント)

複数の商店街や、かつてちとせデパートなどで栄えた中心部は、多くの人が行き交う「まちの顔」と言われていたが、人口の増加やライフスタイルの多様化に伴い、郊外に住宅が増えた事で、訪れる人が年々減少し、活気がなくなってきた。

しかしながら、この中心部には個性を持った人達が日々活動し、もっと魅力的な使い方が出来る可能性を秘めた様々な空間資源があり、新千歳空港からの良好なアクセスの発展によりホテルや飲食などの一定の商圈もある。

R3～4年度では、もう一度しっかりと「まちの顔エリア」を見つめなおす為、中心部のまちづくりの関わりの深い官民の関係者で構成される「ちとせエリアプラットフォーム」を立ち上げ、議論やエリア内での社会実験を重ねながら、このエリアが目指すべき将来像を「ちとせ未来ビジョン」としてまとめた。

### ◎目指すエリアの将来像

「たくさんのヒト・モノ・コトがあつまり、楽しく過ごせるまちのリビング」

〈エリアの具体的なイメージ〉

- ・誰でもまちづくりに参画し、絆を育んでいくエリア→人づくり
- ・グリーンベルトや千歳川などの資源を利用して、楽しみと出会うエリア→空間資源の活用
- ・交流とコミュニケーションの拠点となり、経済の活性化につながるエリア→日常的な賑わい
- ・歩いて楽しい回遊したくなるエリア→ウォークアブルなまちまか
- ・情報を通じて多様な人とまちがつながるエリア→効果的な情報発信

この様な「将来像」を実現する為、実証実験を行った。そして、そこから浮かび上がったエリアの課題。例えば、・若い単身世帯がエリアに多く存在するが、大学や空港は郊外にあり、つまり昼間にここに若者がいない。・人が自然と集まってくるようなシンプルな拠点場所がない。・空き家、空き店舗が目立ち、景観が寂しい。・現在のグリーンベルトや千歳川は、魅力を活かしきれておらず、もったいない空間になっている等の現実と向き合い、時代の変化を捉えて、これから目指す将来像を描き実現していこうとする姿が見えるのである。

**◎扱て、西宮市も他人事ではなく、急速に進む少子高齢化の中、行政が主体となって取り組むべき街の復興課題は無限である。本市の「住みたい街 ナンバーワン」は、全て民間主導で成し得た事である。今後の施策推進に期待したい。**

**※※ 尚、最初の訪問先である「芦別市」の「施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について」は、未だ思考中であると存じ、この度の報告事項としては省略する。**

[ 提 言 ]

この度の主な視察テーマは公園整備についてである。

その中で、私が日頃より問題視しているのが、子供の視点から見た公園の現状と今後についてである。その点に絞って申し上げたい。

子供の居場所(私はこの表現には賛成しないが)については、国としては体系的な政策ではない状況である為、市が率先して公園の設置状況・運用状況だけでなく、子供の遊び場としてその使用ルールも含め、「子供の育ちの視点」から調査・検証する事が先ず最優先すべきではないだろうか。

この少子化の時代に、子供の体力不足、運動能力低下が大きな課題として目の前に立ち回っている状況下であるからこそ、今一度「外遊び」の重要性に着眼して頂きたい。

子供にとって「外遊び」が心身の健全育成に資する事、また外遊びの場が自宅や学校と異なる場所となる事は、広く共有認識されているものの、子供の外遊びは不十分である。それは「その空間として存在しても、制約が多い」事も大きな要因の1つである。とりわけコロナ禍に於いては、公園の立ち入りも制限されたものである。

少子高齢化社会で子供の教育に対する重要性が増している昨今、子供の成長に重要な影響を与える小・中・高の過程に於いて、公園は屋外で自由に遊び自然体験の出来る場を提供するといった観点や、次々と新しい遊びを生み出す機会を提供する場といった観点から、子供の創造力を育む場として極めて重要である。

本市の、更には日本の将来を担っていく子供達の心と身体の健やかな成長の為、子供がふと遊びたくなる「仕掛け」のある公園整備を是非心がけて頂く事を切に要望する。

以 上



# 委員会行政視察報告書

委員氏名 花岡 ゆたか

■ 調査の期間 令和5年（2023年）10月31日（火）～11月2日（木）

## ■ 調査先及び調査事項

芦別市 ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

札幌市 ・身近な公園の再整備について

苫小牧市 ・公園における既存施設の活用について

千歳市 ・グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

## 1. 芦別市

### ・施設や利用の状況を踏まえた公園再整備について

芦別市議会において、中心として事業を行っている経済建設部の渡邊様、窪田様より説明を受けた。実質の担当は窪田様1名。

## ■ 感想・意見

### ・芦別市都市公園再整備計画

都市公園42ヶ所を、街区公園(35)、近隣公園(4)、運動公園(1)、特殊公園(1)、総合公園(1)の5種に分類し、普通公園14ヶ所とを合わせて再整備を行っている。

→本市の都市公園は、滑り台・ブランコ・ジャングルジム等々を備え、どこも似たような遊具があるが、芦別市では遊具のない公園など用途を分け、「量から質へ」への移行が進んでいる。市街化が進み土地の少ない本市としては、うらやましい限りである。

### ・北海道内陸部と言う特性

→芦別市内の公園は11/1～4/14の間、閉鎖される。閉鎖期間中は水道管の破裂を避けるために水道管の水を抜いていると言う事だった。冬に公園が閉鎖されると言う、我々が西宮市で考えもしないことがこの地では常識であり、我々の常識が日本国内全てで通ずる物ではない事を再認した。



視察の様子

## 2. 札幌市

### ・ 身近な公園の再整備について

札幌市では、令和2年3月に「札幌市公園整備方針」を策定し、老朽化が進む公園の配置の適正化や、機能によるセグメント化を進めている。

### ■ 感想・意見

- ・ 先の芦別市同様「量から質へ」という考えのもと、少子高齢化などの社会情勢に応じて、機能によるセグメント化を進めている。  
→ これも先の芦別市と同じく、市街化が進み土地の少ない本市としては、うらやましい限りである。
- ・ 公園の機能も含め、地域が必要とする機能があるので「選択と集中」という考えのもと、廃止や新規整備を行っている。  
→ 繰り返しになるが、土地のある北海道の事例であり、市街化が進み土地の少ない本市としては、うらやましい限りである。
- ・ どの公園にでも最低限の機能を持たせてトイレを設置するのではなく、小規模公園等で必要性がない公園では廃止し、再整備をする公園ではフルスペックの公衆トイレを整備する。  
→ 小規模公園で必要性がなければ、再整備の際に廃止を検討するという事だが、フルスペックでなくとも公園にはトイレが必要だと考える。

### 3. 苫小牧市

#### ・ 公園における既存施設の活用について

市の施設であったが、屋内スケートリンクの廃止に伴い利用者が激減。議会の意向により、平成 30 年に民間事業者のプロポによる公募での再利用を試みたが、応募者はなかった。条件を大幅に緩和して、現在の事業者が決まり「TOMARO」として生まれ変わった。

#### ■ 感想・意見

・ 広大な敷地に、陸上競技場、野球場、サッカー場ラグビー場、テニスコート、ハイランドスポーツセンター（スピードスケート規格）などの運動施設があり、宿泊施設と管理事務所とを兼ねて「TOMARO」がある。

→ ニーズは充分にある事が分かるが、初めの公募で応募者がなかったのは、あまりにも施設が大きいため事業者が二の足を踏んだのではないかと推測する。条件を緩和したところで指定管理者となったのは、地元の建設会社の緑豊建設株式会社である。緑豊建設株式会社は本業とは別に緑ヶ丘公園運動施設統括本部を設置し、管理にあたっている。担当者の話によると、運動施設統括本部の社員には建設現場の経験はなく、まさにこの施設のための部署であり、緑豊建設の地元愛と熱い志がうかがえた。

令和 5 年度に初めて黒字化が見込めると言う事で、民間のノウハウや柔軟性がこの施設を救ったと考える。



施設内のトレーニングジム

## 4. 千歳市

### ・ グリーンベルトの改造による拠点形成とエリアマネジメント推進について

まちの中心部をリビングにというテーマをもって「ちとせ未来ビジョン」が、令和5年2月に策定された。商店街やデパートの商業施設や、歓楽街でにぎわっていた都心部は、札幌市にお客さんを奪われ、現在千歳市はベッドタウンとして市そのものが変容している。

### ■ 感想・意見

・ 失われた「まちの顔」を取り戻すべく、新たなポテンシャルとして、文化交流機能、産業振興機能、観光機能を備えたグリーンベルトを整備し、ヒト・モノ・コトが集まるまちのリビングを目指している。

→ 我々が訪れた平日の昼間だと、保育所の子どもたちが遊んでいるだけで閑散としていた。祭りを初め多くのプログラムが準備されているとの事で、賑わうグリーンベルトの姿を今後画像や動画で見ようと思う。

幅も広く、総延長も長い。大きなイベントの開催が期待される。



グリーンベルトの様子



## ■ 西宮市当局に対する提言

### ・公園

→ 東京には代々木公園や新宿中央公園、大阪には靱公園や天王寺公園がある。しかしながら、本市には都心部に広大な公園がない。日本国内の大都市を見ても、都心部に広大な公園がある都市が多い事が分かる。

本市においては、都計 4.3.303 鳴尾中央公園等を早急に整備し、本市南部市域のアメニティ向上を図るべきである。

### ・グリーンベルト

→ 本市には、浜甲団地に全長約 600mのブルーバールがあり、鳴尾浜埋立地には全長約 500mの鳴尾浜臨海公園(中地区)があるが、鳴尾浜の方は暗く臭く人がほとんどいない。やはり、グリーンベルトは都心部に設けるべきである。

本市の場合、余剰市有地があればすぐに民間に売却する傾向にあるが、市有地を残しその間の土地を買収することで、グリーンベルトを実現する事を望む。